

2006年4月11日

高い抗酸化効果とリラックス効果を併せ持つ花の香りを発見！

肌の抗老化を期待させる香り「ジュネッセンス」の開発に成功

キク科の多年生植物「ヘリクリサム・ストエカス」(別名インモルテル)から抽出

株式会社カネボウ化粧品

当社・製品開発研究所は、塩野香料(株)との共同研究により、キク科の多年生植物「ヘリクリサム・ストエカス」(別名インモルテル)の精油から、高い抗酸化効果とリラックス効果を併せ持つ香り成分「ジュネッセンス」の抽出に世界で初めて成功しました。この自然の花の香り成分が持つ2つの効果の相乗作用により、高い「エイジングケア(肌の抗老化)」が期待できます。



植物の持つ生命力に着目

植物は四季折々に色鮮やかな花や芳しい香りで人間の五感を楽しませ、そして癒してくれます。しかし、植物は人間を楽しませるためにのみ花をつけ、香りを出している訳ではありません。植物は過酷な自然界の中で生存するために、大切なエネルギーを費やして花を咲かせ、花や葉、枝の香りで虫達を誘引し、あるいは身を守っているのです。このような「好い花の香り」が持つ様々な“優れた知恵”に私たち人間が学ぶことは多く、古代より、「香り」としての役目ばかりではなく、身体的病や精神的病の治療、さらには、より美しくなるための美容手段として用いてきたことから、その利用価値の高さがわかります。

当社は、これまでに様々な自然の植物の香りを研究し、「鎮静効果」や「覚醒効果」、「ストレス緩和効果」、「メラニン生成抑制効果」、そして「ヒアルロン酸合成促進効果」などの効用を発見、化粧品に応用してきました。

「活性酸素」が皮膚に及ぼす様々な悪影響

空気中に含まれる酸素は、私たちの生存には欠かせないものです。しかし、その一方で、私たちの体に様々なダメージを与えていることもわかっています。酸素は非常に反応力の高い元素で、ものを燃やしたり、鉄を錆びさせたりする力を持っていますが、さらに異常なレベルまで活性が高まったものが「活性酸素」です。スーパーオキシド、過酸化水素、ヒドロキシラジカル、一重項酸素などの種類があります。

「活性酸素」が生成される原因は様々ですが、外的因子のひとつに紫外線があげられます。肌に紫外線があたると、皮膚内の水分子や酸素分子が化学変化を起こし「活性酸素」が発生します。また、ストレス、不安、怒り、恐怖などの内的因子も「活性酸素」を増加させます。内的要因により、神経伝達ホルモンが血中に放出されると、心拍数や血圧の上昇や瞳孔が開く、血液の流れが強まったり弱まったりするなど、異常な状態が引き起こされ、その結果「活性酸素」が多量に作られるのです。

これらの「活性酸素」は、細胞内のメラノサイト（色素細胞）を刺激しメラニンを生成して、シミなどの原因を作ります。さらに、皮膚の真皮にある線維芽細胞を支え弾力性を保つ働きをするコラーゲン繊維やムコ多糖類に作用し、シワ、たるみなどの原因になるといわれています。

このように「活性酸素」は、皮膚にダメージを与え、トラブルや老化を引き起こす物質として、その存在が問題になっています。

抗酸化効果に優れた香り成分「ジュネッセンス」の開発に成功

そこで当社は、従来から、この「活性酸素」の産生を抑制する天然精油を研究してきました。入手可能な花、葉、樹木、根などの天然精油を抗酸化の観点から調査し、約 100 種の天然精油を選出。すべての精油に対し、抗酸化試験（NBT 法、DPPH 法など）にて効果を調べたところ、キク科の多年生植物「ヘリクリサム・ストエカス」（*Helichrysum stoechas*）が非常に高い抗酸化効果を有していることを発見しました。そこで、この植物の精油を抽出し、分画、分析、効果試験を繰り返しながら、抗酸化効果を有する特定成分の解明へと研究を進めていきました。

そして最終的に、特に抗酸化効果の優れた成分「ジュネッセンス」を発見し、抗酸化効果があるといわれる精油・ローズマリーに比べ 3 倍以上の高い効果を確認しました。

「ヘリクリサム・ストエカス」（*Helichrysum stoechas*）の名前は、*Helio*（太陽）と *chrysos*（黄金）に由来します。別名「インモルテル」（*Immortelle*）または「エバーラスティング」（*everlasting*）とも呼ばれ、*Im*（否定の意味）と *morte*（死）に由来する名前であることから、偶然にも不死、不老を意味する名前が付けられています。「ヘリクリサム・ストエカス」は、南スペイン、ポルトガルなど地中海沿岸に自生し、甘くスパイシーな香りを漂わせる、黄色の小さい可憐な花をつけます。

「ジュネッセンス」のもつ優れたリラックス効果

現代人は、紫外線や大気汚染などの外的ストレスに加え、過剰な心理的ストレス環境下に置かれています。その結果、微妙に保たれている身体の恒常性（ホメオスタシス）がくずれやすいため、肌をはじめ身体に悪影響を与える「活性酸素」が増加しやすくなっているといえます。このことが、シワやたるみ、肌の色の悪化、くすみ、炎症、シミといった肌トラブルを生じさせる要因となっています。

この元凶となるストレスを緩和するために、香りはいかに有効な手段となります。情動をコントロールする大脳辺縁系に直接作用するからです。

そこで、副交感神経活性と 波ゆらぎ係数の指標から、「ジュネッセンス」の香りの測定を行いました。その結果、この香りを嗅ぐと、副交感神経活性値の上昇がみられ、また、波揺らぎ係数がマイナス 1 に近づくことから、リラックス度が高まることが示されました。

高い「エイジングケア」が期待できる天然の香り「ジュネッセンス」

このように「ジュネッセンス」は、高い抗酸化効果を持つ天然植物由来の香り成分であり、さらに、ストレスを緩和しリラックス感を与えてくれる優れた香りでもあります。肌に悪影響を及ぼす外的、内的ストレス因子に対して有効に働き、若く活き活きとした肌に導く「エイジングケア」が期待できる新しい時代の香りといえます。

この成果については、特許出願するとともに第126回日本薬学会（仙台、3月28日～30日）で発表しています。

= 参考 =

抗菌性効果のある香り

このジュネッセンスの香りには、先の研究で高い抗菌性効果も認められています。Bacillus subtilis (バチルス・スプチリス) や Staphylococcus aureus (スタフィロコッカス・アウレウス) など幾つかの細菌に対して、特に優れた抗菌作用を持つことがわかりました。

他の抗菌性効果があると認められている香気成分や抗菌剤と比較しても、同等もしくはそれ以上の優れた天然の抗菌力を示しています。

ごく微量で効果が期待でき、特定の菌種に対してのみ効果を発揮する、優れた「選択性」も持っているため、自然の花の力を利用した安全性の高い機能性香料の開発に寄与すると考えています。